

# 月刊 まち・コミ 2009年5・6月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



● 今月の注目記事 ● P1 ~ P3 大工さんが台湾で建設作業開始 p4~5 住宅再建状況~みくら5から~



日本と台湾の大工、そして田中顧問、藤川一級建築士

## 大工さんが台湾で 建設作業開始！

～台日交流古民家移築事業～

神戸市長田区御蔵地区の、2000名が関わった古民家移築集会所完成（2004年1月）後、その感動をもう一度と、被災地台湾との交流から、台日交流古民家移築事業を開始しました。想いの始まりから既に丸4年。長い道のりでしたが、台湾や日本の心暖かい応援とご協力により、ようやく建設準備が始まりました。

古民家は、台湾台北縣淡水鎮の平和記念公園の中に、若州一滴文庫（福井県大飯郡おおい町岡田、作家水上勉氏開設）の名前の由来でもある、一滴の精神を感じられる場として建てられます。水上勉、陳舜臣二大作家の書籍を揃え、建築文化保存の役割も果たします。日本の大工を先頭に多くの台湾や日本や全世界の若者や関係者が、現場で共に汗を流し、また周りも応援する建設プロセスやその後の交流を通じて、台日や世界の平和交流を推進します。

2009年6月8日、斉藤賢次大工、細見学大工、藤川幸宏一級建築士が建設作業のため訪台しました。訪台第一週は木材の確認に始まり、6月15日から木材の加工に入っています。7月中旬に上棟、その後内装や土壁づくりをし、11月完成予定です。

台日交流の意義を共感していただき、1999年台湾集集大地震から9年のつきあいになる台湾のパートナー邱明民さん、蔡葉偉氏（淡水鎮鎮長）、またこの度の建設業者の洪秀全氏（虹泰營造有限公司社長）に多大な協力を得ています。ありがとうございます。

そして、これまで日本で応援して下さっています皆様には解体から5年の歳月がかかってしまったこととお詫びするとともに、支えて頂きほんとうにありがとうございます。また今後とも応援よろしくお願ひします。



日本人大工が指導しながらの作業

### 贈呈式（2008年7月）その後

2008年7月21日の贈呈式後、淡水鎮の事業として、2009年3月19日に開札があり、入札業者が決まりました。5月22日には田中顧問、齊藤大工、細見大工、藤川一級建築士が訪台し、これからの作業段取りの相談と倉庫から木材を移動しました。5月30日近隣の応援団に集まって頂き、大工さんへの壮行会を行いました。

6月22日から台湾の学生がボランティアで参加します。そして、日本の学生も参加します。多くの良い交流にしたいと思っています。

2008年11月5日淡水鎮役所（蔡葉偉鎮長始め18名）職員一行が、神戸市政府、御蔵地区を訪問してくださり、交流勉強会を行いました。（詳しくは2008年11月号6ページ参照）

その勉強会の時、建築士の武田則明先生からは、日本、台湾のみならず世界で忘れかけている、建築物や自分のかわる仕事への“愛”のことをお話ししてくださいました。さて、どのように事物に愛をかけるのか。（機械等で効率を求めるのではなく、）現場に行き、自らの「手」で取り組むことだそうです。手で心を表すと。今回移築する古民家（棟梁水上覚治（水上勉父））は大正時代のものです。その時は、大工の技術が一番上がっていた時期だそうです。だからこそ、そこに学び日本を超え台湾で建てる意義があると。

日本民藝（みんげい）館をつくった柳宗悦（やなぎ・むねよし）は、「手はただ動くのではなく、いつも奥に心が控えていて……働きに悦（よろこ）びを与えたり、また道徳を守らせたりする」と伝えます。

台湾で建設工事が始まり、1本、1本部材を見ていると、（工作機械のない大正4年築なんで当然なのですが、）全ての木が違う形をしています。よくこんな一つ一つ違う木を組み立てたなあと驚いてしまいます。大きな部材は、大きな部材の役割。小さな部材は、小さな部材の役割。形のまっすぐな部材は、まっすぐな役割。形の曲がっている部材は、曲がっている役割。……と、見事に木が民家の中で役割を果たしています。さらに建設後も、どちらに曲がるか、常に力のいるところか等の特性を見ながら、水上覚治（水上勉父）棟梁は建てられています。

また、工事をする仲間や、人数の要る建前時は、地域住民をも一緒に陣頭指揮をとっていたことが想像できます。改めて棟梁（今回の古民家は水上覚治氏）とはすごいリーダーだなあと思い、今回のプロジェクトやまちづくりにも多く学ぶところがあることを確信しています。

最後に法隆寺宮大工西岡家に伝わる口伝を



現場作業終了後も、上棟に向け、解体時の映像を見て確認する齊藤大工（右）と細見大工（左）

掲載します。  
 塔組は木組。  
 木組は木の齋組。  
 木の齋組は人組。  
 人組は人の心組。  
 人の心組は棟梁の  
 工人への思いやり。  
 工人の非を責めず  
 己の不徳を思え。

この口伝は、台湾一滴水と並び、今回のプロジェクトの目的であります。邱明民さんが建設現場の合宿所にも額に入れてあり、作業する方が見えています。

これまでの経緯は、月刊まち・コミ2008年8月号をご参照ください。まち・コミWEBでも見られます。また台湾に事務局も滞在していますので、ブログにて建設の状況を報告しています。

# 古民家を台湾に移築



日台の交流の架け橋となる古民家移築事業で棟梁をつとめる斎藤賢次さん（左）と細見学さん＝市島町北岡本で

斎藤 賢次さん（市島）  
 細見 学さん（春日）

共に土務見習い市島町北岡本の斎藤賢次さん（55）と、春日町上井庄の細見学さん（60）が、台湾・台北縣に日本の古民家を移築するプロジェクトで棟梁を務める。上棟、羅盤工事までのおよそ2カ月間、陣頭指揮をとる。大震災を経験した神戸と台湾の交流事業で、移築する古民家は、作家、水上勉の父で、大正時代、福井県大飯町にあったもの。日台交流の架け橋となる大事業で、2人は期待と不安に胸をふくらませながら、現地入りした。（足立智和）

## 震災縁に現地で陣頭指揮



移築の仲介をしたのは、神戸市長田区で活動する阪神淡路大震災まち支援グループ「まち・コミュニケーション」で、台湾に移築する古民家

### 釘を使わない 伝統技法再現

淡路島の平和記念公園内に移築する。現地の職人やボランティアの学生らと共に工事をする。日本からも「応援団」が駆けつけ、築90年ほどの建物の解体の住宅で、1本の釘も使っていない伝統技法で作られたものを、忠実に再現する。今秋の完成予定、建物に接している作家の陣頭監督の活躍を高グループに申し出て、台湾に移築する運びになった。5年



1924年創刊  
 〒690-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原201  
 丹波新聞社  
 TEL (0795) 72-0320/0  
 FAX (0795) 72-1085  
 URL http://tanba.jp  
 E-mail tanba@tanba.jp  
 岡山支局  
 〒690-2323  
 兵庫県岡山市立町95-2  
 TEL (079) 552-7105  
 FAX (079) 552-7106  
 毎週日曜日・木曜日発行  
 月々の購送料 1,200円(税込)

ちたんザ・プレミアム  
 商品券使えます  
 兵庫県西宮市西山酒造場  
 TEL (0795) 86-6331  
 http://www.kotsumi.co.jp

本紙ケータイサイトはこちら  
 イベント情報を知るのに便利。読者の撮影写真も見られます。  
 http://m.tanba.jp

前に日本の大学生ら約40人と台湾の学生4人が解体。その事に、斎藤さんと細見さんが立ち会った。解体は、氷上町内に部材を保管。3年前に建設場所が決まらなかった。台湾にコンテナ3台分の資材を送った。細見さんは、「解体に参加した人や、その後、移築実現に向けて多くの人が厚みされてきた。すごい喜びを感じている」と言い、斎藤さんは、「日本の伝統的建築技術が、現地の大学生に技術を伝えた。震災後の助け合いから生まれた事業なので、交流を大切にしたい」と話している。

2009年6月11日

<http://machi.comi.blog42.fc2.com/blog-category-2.html>

### 交流ツアー等を企画しています！

作業の様子を見たいというご要望にお応えし、7月中旬には【交流ツアー】を企画しています。詳細は決まり次第、上記ブログにて随時ご報告させていただきますので参加ご希望の方はブログのチェックをおねがいします。

交流ツアーでは、水上勉先生の名作「ブン

ナよ木から降りてこい」の紙芝居を清野友義氏（きよの絵本劇場）が上演して下さる予定です。

学生始め日本からの作業ボランティアも大歓迎です。

参加ご希望の方は、まち・コミ(m-comi@bj.wakwak.com)へご連絡ください。

## 阪神・淡路大震災から14年目の住宅再建状況 ...共同住宅「みくら5」から

阪神・淡路大震災で壊滅的な被害を受けた神戸市長田区御蔵地区に、足かけ4年の月日をかけて、共同再建住宅の一つとして1999年12月に建設された共同住宅みくら5。初代まち・コミュニケーション代表の小野幸一郎氏が奔走し、居住希望者に寄り添い、数多くの関係者の力に支えられながら、コーディネートしました。(詳細は、みくら5記録集に詳しい。)

利点は、集約換地(土地が離れていても、土地を寄せ合って共同住宅にできる)と、住宅都市整備公団(現都市再生機構)のグループ分譲制度と高齢の方も借りられる割賦金(住宅ローン)が使える、御蔵に住み続けることができることでした。入居者の中には借地を買った方もいらっしゃいます。

昨今のニュースでも連日報道されているように、不景気が始まっており、企業の設備投資や公共工事の削減等、がでています。居住者の中にはもちろん様々なお仕事の方が入居されており、景気の影響を受けやすいお仕事の方もいらっしゃいます。その中で建設業に従事されている方がいらっしゃいました。

そんな世の中で、完成から9年経ったある日、残念なことに2年間の管理費滞納の居住者が出ました。

2008年9月、動向を心配された小野氏よりまち・コミ事務所に相談され、建設コーディネート時代のメンバーからは入れ替わっているが、居住者から頼りにされていることもあり、この事案の動向に対し、「管理組合と居住者の間に寄り添い、今後の管理費について考える場をつくること。」「滞納されている居住者の次の住処への動向に寄り添うこと。」等をまち・コミは協力しようと決めました。

9月9日にその居住者とお会いし、割賦金2ヶ月と管理費は2年滞納していること、入居時と比べると収入が10万円減っている等の現状を確認し合いました。また奥様は、病気がちで、しばらくはパートも難しく、今の経済状況の夫の収入のままで、ローンを払いながら住み続けることは難しいことも。働いて84歳まで払い続けなくてはならないのです。

そこで、割賦金滞納をしているが、まだ民間で任意売却が可能かの債権者(都市再生機構)への確認と近隣不動産業者への周辺相場の確認。またその当時は、債権者が待ってくれると思いき、売却により、ローンが完済するかのバランスシートや、所有物件を賃貸し家賃の安い民間住宅へ入居することも考えていました。その後周辺不動産相場からいくと、民間で任意売却しても、完済は困難であることがわかってきました。同時に居住者の次の住処の検討にも入りました。

10月24日、再度居住者と打ち合わせを持ち、上記を説明しました。そして、都市再生機構に滞納している割賦金は今後どうなるのか確認しなければならぬと11月14日に居住者と共に確認に行きました。そこで担当の方から言われたのは「12月から裁判所への競売手続きに入ります。滞納金(8ヶ月分と判明)全額返済できれば、競売手続きを取り下げます。」とのこと。御蔵に戻り、居住者のご夫婦で相談し、都市再生機構が12月の競売手続きに入ることを考えると民間売却の可能性はなくなったこと、競売手続き後の住宅の確保と管理組合への報告が必要であることを確認しました。

11月19日、居住者の方と共に、区役所へ市

営住宅の相談に行きました。競売中とはいえ、住宅を所有しているので、市営住宅は応募できないことがわかりました。また次の住宅の敷金や引っ越し代も厳しいとのことで、その辺りに関しても、いろいろ相談しました。

まち・コミは同時並行で、管理費の徴収についての調査をしました。管理会社や神戸スマイルネットや住宅問題に詳しい方に聞きにいったりしました。

12月14日にみくら5の管理組合は臨時総会を行い、居住者の現状と所有物件の今後（競売のスケジュール）を報告し、滞納管理費をどうするかについて、話し合いました。もし、居住者のお知り合いで、住みたい方が居れば、競売に参加して欲しいということも。

まち・コミは、当然ながら資力はありませんが、運営委員会やお知り合いに物件の声掛けをしました。

年は越え2009年。1月16日に裁判所の担当者が競売物件の調査に来られました。

5月7日に裁判所にて競売物件の入札が始まりました。

5月8日、市営住宅は条件上厳しい。また郊外では仕事に支障が出るので無理。居住者自ら、不動産屋を回り、近くで条件に合う物件を探してこられました。

5月19日に落札者（不動産屋）が決まり、居住者は引っ越し手続きに入っています。

しかし、まだローンは残るのです。また公の機関でなければ、もっと立ち退きの要請は早まったはずです。

阪神・淡路大地震の復興の中で、緊急に考えるべき多くの案件や、生活に必要な資金の調達に対して、時には多少の無理も承知で神

戸では、精一杯の選択をしている方もおられます。震災から14年を経、身の丈に応じた対応を益々多く迫られます。これは不景気の今、被災地だけの問題ではないはずです。震災から14年経った今も、住宅再建や地域の状況を追って記録にしていけること、そして発信していくことの大切さを改めて感じました。

まち・コミは、関係者との間で何ができるかも考え続けています。今回の事象の中でも、確認した目標に向け動きました。まち・コミのその関わり方（相手との距離のバランス等）が、どのような影響があったのか、振り返り活かさなくてはなりません。

『みくら5記録集』：まち・コミ神戸事務所  
で頒布しています。ご希望の方はご郵送致します。



みくら5



## 阪神・淡路大震災 語り部からのメッセージ 第6回

東尻池町で被災し、東尻池町で暮らす 伊藤隆之さん

私は震災前から手話サークルに入っていました。聾の方っていいましたら情報量が少ないですよ、しゃべれない聞こえないって。だから、地震のときは連絡取り合っていました。そんな中、ばったり出会った知り合いの聾の方が電気がまだ来ていなくて困ってたんですよ。電気はもうそこ以外きてるはずなのにおかしいんですよ。あとで市の職員に確認したらそのアパートにはだれもいない、避難したというんです。そんなはずはない、困ってる人がまだ知らずに半壊したアパートにいるんですから。行政は避難勧告は出すけども実際本当に調べたわけじゃないんですよ。そのアパートはもう危なくて電気は通せない状態だったらしいんですけど。その後、近くの体育館に避難していました。そうやって歩き回っていたんですけど個人情報の問題があって聾啞の方すべてを把握するのは難しい。本当は地域で支えていかなきゃいけないんですけど。

復興には前から携わっていて、やることに関してはいろんな協力をしていました。市は、まちづくりを計画どおりにやりたい。でも住民はそうじゃない。そのころから興味もってました。私は生まれも育ちもこの辺なんでね。だから実際住んでいる方と気持ちの共有はできますよ。見慣れた町はみんな燃えてがらっと変わっているんですよ。僕なりに燃える前のイメージはありますからね。少なからずいろんな因縁というかつながりがありましたから、自然と語り部の一員になっていました。私は写真が趣味で、地震後に定点観測をやっていて。だから最初のころは写真係をやっていましたね。語る以外にも炊き出しなんかもやったりしています。電気、ガス、水が出ないときあったかいもんが食べたいときに役に立つように、火の使い方、うちわの使い方、薪を作るとかね。

御蔵に来られる学校の生徒さんたちは事前学習をしているからこっちの話に興味もってぐんぐん吸収してくれます。地震を背景にするとより理解してくれて。地震って天災といえば天災だったけど、人災の部分も多いですからね。高校生には命の大切さって言うかね、そういうのを教えていかなくちゃっていうか。今もあるかわからないけどいじめで自殺するっていうのがありましたでしょ。地震の経験を通して、人間は普段疎遠であってもなにかあれば助け合うっていうね、そんな気持ちになりましたよ。私の住んでいた地区の自治会は、近所のすし屋やその他の自営業の方は地震で仕事ができないから、自治会に参加していて。自分はインフラの仕事だったから自治会に昼間参加できない。仕事がなく一銭も入らない人にお世話になっている矛盾を感じましたね。困ったときはお互い様やて言うてくれたんですけどね。



【取材 専修大学 尾田佳南子 山下景子】

## 2008年度収支報告

(2008年4月～2009年3月)

収入		支出	
(前年度繰越金)	¥1,838,525	事業費	¥4,565,272
会費	¥1,024,000	人件費	¥3,600,000
寄付金	¥113,115	通信費	¥345,100
助成金	¥0	交通費	¥53,430
事業収入	¥8,357,682	事務管理費	¥40,305
雑収入	¥23,871	家賃・水光熱費	¥1,288,844
預り金	¥80,700	所得税	¥64,560
		雑費	¥259,276
		(翌年度へ繰越)	¥1,221,106
合計	¥11,437,893		¥11,437,893

昨年度も、応援してくださるみなさまのおかげで、活動することができました。ありがとうございました。今年度もよろしく願っています。

まち・コミュニケーション

## 大地のつぶやき

語り継ぎ、受けとる大切さ

昨夏社会調査実習で当地に入った専修大学文学部大矢根ゼミの学生たちが三月下旬にその成果物をヒアリング対象者一人ひとりに手渡し、お礼にやって来た。丁度じゃがいもの植え付け時期で、人手が欲しく出石の市民農園に行かないかと誘ったら、五人が応じてくれた。少し前に但馬養父市の画家でもある西垣岩男さんの小冊子『沖繩戦への道―一兵士の記録―』を読んで感動していた。大矢根先生にも相談し、出石の帰りに西垣さんを訪ねる提案をする。西垣さんから快諾を得ていた。

二十八日は生憎の雨で植え付け作業は出来ず、二十九日も朝方まで雨が残り、この間に小冊子を回し読みして、午後から西垣さんを訪ねた。初対面なのにそんな気がしなくて、学生たちに語る話は昨日のこの様に思えた。昭和十八年七月に三十九才予備役のお父さんが召集され姫路の部隊に入隊、すぐ満州に渡るとのこと。西垣さんは大阪から、お母さんや弟妹方は八鹿から列車で姫路へ。久しぶりの親子打ち揃っての面会は小学校五年生の妹、小三と小二の弟と。この僅かなひとときが最後の時間になる。十九年四月十九日お父さん戦死の公報が入る。その日以来母は毎日泣き暮らす。追いつけぬ様子を十九年五月十三日に千葉県館山の洲崎海軍航空隊に西垣さんの入隊が決まる。舅、姑と幼い三人の子を残され、四反の田畑、二反の果樹園、それに牛を飼っていた。当時の母親の心情は如何ばかりと、六十数年を経た今でも悲痛な思いで語っておられた。西垣さんも二十年三月には鹿屋基地に転進し、四月三日より本格的に沖繩戦が始まり、我が国の領土であり日本人の住む米國に占拠された沖繩の北(読谷)中(嘉手納)飛行場を攻撃することになる。学生たちは戦争用語の理解に乏しいが、八十才の西垣さんとは心情を重ね合わせ、社会調査士としての道を歩み進めたことであろう。年齢差が縮まりすっかり打ち解け合い、別れ際アトリエで沢山の秀作を見せて頂いた。

株式会社兵庫商会 田中保三

# まち・コミ活動報告

4/1 ~ 5/31

- |                    |                    |                  |
|--------------------|--------------------|------------------|
| 4/7 出石市民農園         | 5/3 出石市民農園         | 5/18 運営委員会       |
| 4/13 神戸学院大学研修打合せ   | 5/7 スタッフ打ち合わせ      | 5/20 月刊まち・コミ発送作業 |
| 4/14 スタッフ打ち合わせ     | 5/9 青池監督来訪         | 5/22 ~ 24 台湾渡航   |
| 4/14 震災学習打ち合わせ     | 5/9 台湾古民家移築打合せ     | 5/26 まちコミ打合せ     |
| 4/18 アースデイひょうご受入   | 5/10 出石市民農園        | 5/29 中国語         |
| 4/19 出石市民農園        | 5/12 震災学習受入(富山新庄中) | 5/30 台湾民家移築打合せ   |
| 4/21 震災学習受入(高知大桁中) | 5/13 震災学習受入(高知夜須中) | 5/30 台湾民家移築壮行会   |
| 4/22 関東都市学会ニュース発送  | 5/13 スタッフ打合せ       | 5/31 出石市民農園      |
| 5/1 スタッフ打ち合わせ      | 5/17 震災学習受入(高知大津小) |                  |

## ご支援、ありがとうございます。

4/1 ~ 5/31

### 賛助会員(新規・継続)

安藤厚子(高知県) 岡田幸子(東京都) 増田友厚(長野県) 木村徹(広島県) 津久井進(兵庫県)  
 古殿宣敬(兵庫県) 高谷克人(東京都) 川崎茂(大阪府) 神坪浩喜(宮城県) 松永英次(兵庫県)  
 大東石油㈱(兵庫県)

### 協力

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

## 新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

### 会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 新型インフルエンザでは、震災体験学習のキャンセルが相次ぎましたが、再度調整をし、申し込んでくださる学校もあります。語り伝えていく活動が必要とされていると実感しました。(戸) - 8 -

### 年会費

個人・法人 年間5000円  
 学生 年間3000円

### 郵便振替口座番号

00950-3-42788

### 口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2009年6月1日発行

編集/発行 まち・コミュニケーション

定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014

神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1

専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/